

第4回 平塚市総合計画審議会

議事録

日時 平成28年1月15日（金） 14時00分～14時50分

場所 平塚市役所本館7階 710会議室

出席者 18名

小中山委員（会長）、照屋委員（副会長）、赤井委員、秋山委員、内海委員、具嶋委員、久保田委員、栗原委員、後藤委員、佐藤委員、須藤委員、田城委員、二宮委員、水嶋委員、宮崎委員、森委員、山原委員、米村委員

事務局 9名

傍聴者 3名

「議事」

■答申（案）について

【会長】今回、総合計画策定にあたってのポイントとして、グローバル化における経済構造・社会構造の変化、少子高齢化の進展など、日本中どこにおいてもあてはまる課題がある。地方においては、地域それぞれの問題が発生しており、「地域創生」「地域社会の活性化」という観点がでてきた。それを受け、今回は総花的でなく、戦略性を盛り込んだ計画として次期総合計画を策定するという議論が始まっていると理解している。「子や孫へたしかな平塚をつなぐ」ということだけでなく、「選ばれるまち、住み続けるまち」というキーワードを戦略的な観点から加えるということで、それが盛り込まれた計画となっている。平塚の魅力を作りだし、発掘し、それをアピールして、「選ばれるまち、住み続けるまち」に繋げていこうというところから、様々な施策に対する意見が出されてきた。その中で、自然増減だけでなく、流入人口を増やし、流出人口を減らすという観点から人口問題に対処していけるのではないかと、また、広報の充実、広域的な行政協力というポイントが必要ではないかというご意見を受け、今回の答申案に盛り込まれている。

以上のことを踏まえ、これよりご意見をいただきたいと思う。この答申案は、2次素案に対して意見を述べるものであって、2次素案の具体的な記述の修正を指示するものではないのでご了承いただきたい。今、読み上げた答申案に対して、意見や加筆修正などあれば挙手願う。

【委員】前回12月22日に諮問があった。その際に神奈川県が様々なビジョンを打ち出しているということを申し上げた。そういう意味では、今日の答申案の2ページ、序論の（4）広域的な行政運営の展開という点で、「県と協働」という文言があってもいいのではないかと思う。神奈川県で考えている内容をしっかりと平塚としても捉えている、県でもこの平塚を中心にさがみロボット産業特区など様々なことも考えている。そういった点も進めていけるように、広域的な行政運営の言葉の中に「県との協働」について入れてもらえると良いと思う。

もう1点、3ページに、第3章分野別施策で住民自治について触れられているが、住民自治については、自治会活動ということで高齢者が住民の自治で重要な役割を果たしている。

高齢者の活躍の場ということで「高齢者」という言葉をどこかに入れた方がいいのではないかと思った。これから一番大事になってくるのが地域の活動、自治会活動であると思うので、そういった点も踏まえて言葉を入れたらどうかと思う。

【会長】 2点加筆して欲しいという意見があった。事務局と協議させていただく。

【委員】 自然環境についても入れていただければと思う。海岸の方は、海岸線が削られて、海岸が崖みたいな状況にあるので、そういったことも含めて自然環境について触れてもらえればと思う。

【会長】 現在の答申案に含まれていても、強調すべきところがあれば、もう少し強調するという観点から修正を加える所は加えていきたいと思う。

【委員】 国語的な表現を含んでいるのだが、まず1ページ目の「真に必要な施策を選択し」という箇所について、これは「施策に優先順位を付け」とかそういう表現でもいいのかと思う。今の表現だと○か×かみたいなそんな表現に聞こえてしまう。

2点目に、これも国語的な表現になるのだが、2ページ目の第3章(1)、「多くの人から選ばれるまち住み続けたいと思われるまちづくり」という表現。その下にも同じような表現があるが、そこでは「選ばれるまち・住み続けるまち」となっている。これは同じことを言いたいところなので、前者の表現を後者と同じような形式で、表現を一致させた方が良く思う。繰り返し出てくるキーワードでもあるので、表現的にはその方がしっくりするかと思う。

3点目として、会長、副会長が経済経営の先生であるのでお伺いしたいところでもあるが、1ページ目の「人、物、資金」の表現について、一般的には、ヒト、モノ、カネ、と片仮名の表現が多いと思う。これについては委員皆さんのご意見を伺いたいと思う。

【副会長】 これはご存じのように、経営資源としていえば、経営経済の領域では、片仮名表記で、ヒト、モノ、カネ、という言い方をする。資源という言葉を使うと、例えば物的資源、財的資源、人的資源、そして最近では情報資源などがある。委員が仰るとおり資金という表現よりは、片仮名で表記することも良いと思うが、これは計画案なので、必ずしも経営学というヒト、モノ、カネの表現に合わせなくても良いと思う。

【会長】 これに関しては事務局と検討する。

【委員】 前からずっと言ってきたことなので、確認の意味で発言するが、そもそもこの審議会が発足した一番のきっかけとしては、地方創生という一つの政策を、各自治体で何とかやれないか、という話で来たのだらうと思う。本市としての総合計画の節目は1年ずれているけれども、総合戦略と合わせてやろう、となっているが、実を言うと、若干ボタンのかけ違いみたいなものがあったなど、私は思っている。何故そう思っているかと言うと、そもそもここから上がってくる答申案というのは、内閣府の地方創生の本部に行く文書と分かれると思う。一方で、「選ばれるまち」と表現しているのだから、選んでもらう、選ぶようとしている人に対する文書でないといけない面もある。これを見ていると、現在の市民に対して言っていることと、それから他のまちからこのまちへ住んでみようかと迷っている人に対してアピールしようとしていることが2つ混ざっている。そのことが、視点をぼやかしてしまっていると感じる。従って、この中にも戦略的という言葉があるが、戦略的というのは、このまちを選んでもらうために戦略的であるということだらうと思うので、この部分をどうやって分けてい

くのか、言い換えると、市民に対する答申と、選んでもらおうとする人、合わせて内閣府に対しての答申と、この2種類がどうしても必要ではないかという気がする。この答申案はこれでやるのか、改訂版的なもの、対外的なものを作るのか作らないのか、その辺りのことがずっと気かりだったということが1点目である。

それからもう1つ、答申案の内容に関しては特別問題ないと思っているのだが、この中に書いてある、行政改革的な内容についてである。改めて言うこともないと思うが、財政的に今後厳しい状況になってくる、その点をクリアする一つの方法として、効率的な行政運営というものが求められてくるであろうと思う。その効率的な行政運営というものは、ここで答申する、「こういうことをやります」ということもそうだが、何をやるかではなく、むしろ、「どのように進めていくのか」が重要であると思う。その「どのように進めていくのか」について、全く触れていないが、どこかで一度それは検討する必要があるのではないかとずっと思っていた。この審議会の中で行われなくてもよいが、こういうことをやりたいという事業目標が出てきた時に、どうやって展開していくのかということ、方法論的なことがどこかで議論されるべきじゃないかと思っている。

【会長】戦略的な情報発信という点は、2ページの上の方に書いてあるので、そこが、現在平塚に住んでいる方と平塚に来たいという方達と、この2つの人々に対してどうやって情報発信をしていくか。こういうところをもう少し詰めていく形でも良いのかなと思う。その2つを明確に分けるということで今の意見を受け止めさせていただく。

それから行政サービスの効率化、運営について。これに関しては、本計画の遂行における、財政的な問題というところで文言の修正をする必要があるのでは、ということで意見を伺った。

【副会長】今の委員からの意見は、私の理解では、この両方、つまり「選ばれるまち、住み続けるまち」、これは夜間人口、平塚で生まれ育って、引き続き平塚市内で生涯を送っていく、そういう方々が7割近くいる訳である。人口減少に伴い減っていくわけではあるが、その方々に対するメッセージでもあることから、対外的な、いわゆる戦略的な総合戦略のためだけではなくて、この平塚市の向こう8年間の総合計画になるので、そういう意味では、「住み続けるまち」、魅力のあるまち、これが最初で、その次に将来世代から、あるいは域外企業、組織から選ばれるまちと理解している。両方の目標があってまちづくりをしていこうという戦略目標になっていると思う。

【会長】ご指摘、理解させていただいた。

【委員】3ページの都市基盤の変化に伴う環境整備についての表現であるが、広域的な幹線道路の整備がされたというイメージは、国道134号の四車線化やさがみ縦貫道路が出来上がったとか、そういうものであると思われるが、まだまだ茅ヶ崎、平塚、大磯、伊勢原、秦野など、広域的なネットワークを組まなければならないという強い要望が各地域からある中で、整備がされたイメージが134号やさがみ縦貫道路だけのように受け取れるので、若干修正が出来ればと思う。「されつつある」とか代表路線を示すなど、そういう表現にさせていただきたい。

【会長】広域的な行政というところと関連してくるのであると思う。先程、県の話が出たが、近隣の地方自治体との協力というようなことも含め、そういう形で文言の修正をしたいと思う。

- 【委員】 3ページの(3)都市基盤の変化に伴う環境整備について、今、委員が言われたことと重複する部分もあるが、「海岸地域などの環境整備に着実に取り組むよう努められたい」とある。もちろん海岸地域も必要だとは思いますが、平塚は山間部もあるし、中井インターからも道路整備が今後進んでいくと思うので、海岸地域「など」とは入ってはいるが、このように書くと、海岸地域にしか目が向いていないようにも思える。色々な地域、山間部だけではなく、もっと広い目線での環境整備に着実に取り組んでいただきたい。
- 【会長】 先程もご指摘あったように、秦野、厚木、伊勢原など、そういったところとの広域連携が必要ということもあるので、それらも含めた上で修正を加えたいと思う。
- 【委員】 答申案の中身については概ね良いと思う。ただ、何度も同じようなことをいうことになるが、この計画の中で、私たちが目指すべきところは「住み続けるまち」そして「選ばれるまち」、これがテーマであると思っている。今から言っても難しいとは思いますが、「子や孫へたしかかな平塚をつなぐ」というものと並列で標記をされているが、「子や孫へたしかかな平塚をつなぐ」というのは、必要なかというのが疑問である。私達が目指すべきは「選ばれるまち、住み続けるまち」であると思う。キャッチフレーズが2つあるのが好きではないので、出来れば「子や孫へたしかかな平塚をつなぐ」を消して、「選ばれるまち、住み続けるまち」の1本で進めていただきたいと思う。
- 【会長】 「子や孫へ確かな平塚をつなぐ」というのは、私も詳しいところは分からないが、色々な経緯があるので、これを外すというのは簡単に出来るかどうかということとは即答は出来ない。
- 【委員】 概ね素晴らしい答申案になっていると思うが、次期平塚市総合計画の計画期間中に、間違いなく2019年のラグビーワールドカップ、そして2020年のオリンピック・パラリンピックが来るわけである。神奈川県としてもそうであるが、平塚市長もキャンプ誘致等を一所懸命進めているところであるので、そういった中において、オリンピックが全てではないが、オリンピックの後にどういう活かし方をするのか。そういう施設の問題、そして一番は「選ばれるまち」ということにも関連するが、平塚に来てもらいたいということ言えば、特徴というものを少し打ち出した方が良いと思う。今から付け加えるのは難しいかもしれないが、思いとしてはその部分を伝えておきたい。外国の人達が、ワールドカップやオリンピック・パラリンピックに関連して、「平塚に寄ってみたい」と思ってもらい、寄ってもらって、いくらかでも関わってもらい、お金を落としてもらおう。そういうことも丁度、次期計画の期間中の話であることから、次の計画を策定する時には、そういった機会がないものなので、入れ込むことが出来ればと思い、発言させていただいた。
- 【会長】 かなりの部分が、2ページの(1)の戦略的な情報発信に繋がってくると思うが、この部分で皆様のご意見を伺うと、強調し過ぎてし過ぎることはないと感じる。この部分は非常に重要であるという形で持っていきたいと思う。
- 【委員】 答申案2ページの方野別施策(2)住民自治について、「自治会の必要性を広く知らしめる」という表現がある。全体的に言うと答申案はかなり格調高い表現になっているので、あまりそぐわないかも知れないが、地域自治というのはもっと柔らかく、「自治会の必要性を広く」というよりも、「地域の互助会である自治会への参画を進める」といったような文言にさせていただけると有難い。自治会を知らない人はいないと思うが、どんなところかを理解しようとしていない人は若干まだいる。是非、「地域の互助会である自治会」ということで

表現していただきたいと思う。

【会長】住民自治の必要性、重要性というのは、もっともっと強調する必要があると私も思う。この辺りは強調していきたい。

【委員】表現的な話になるが、2ページの(2)に「企業との協働」があるが、これは企業だけでいいのかという話である。大学や色々な団体もある。それと同じくこれに絡んでくることだが、基本計画第1章の(1)めざすべき姿勢についてであるが、「人や企業から選ばれる」とある。では大学からは選ばれなくていいのか？揚げ足を取るようであるが、正直な話、平塚から東海大学と神奈川大学が抜けたら、平塚はめちゃくちゃになってしまう。そういう意味でもこれは企業だけでいいのかと思う。それと3ページの子育て支援の項目なのだが、「環境を社会全体でつくりあげていくことが必要」という表現がある。これは平塚市長宛の答申であるので、「社会全体」ではなく、「平塚市全体で引き上げていく」という表現が相応しいのではないかと。

【会長】なるべく抽象的な表現ではなく、具体的な表現にした方がいい所はそうしたい。

【副会長】今指摘された企業との協働のところであるが、これは「企業・団体等」とした方が広く、その中に大学を含めて、そのような形で企業のみならず、それ以外の各種団体というような表現をした方がよいのではないかと思った。

【委員】全体を通じてそんなに強い意見はないと思っているが、今回の答申を見させていただいて平塚の自然環境という絵は、富士山が見えて特徴的な気候温暖な海も丘陵そして野原も田園風景もある。そういったものを形成している骨格が色々な社会インフラもあるが、相模川であり、相模川水系といったものと切って切り離せないことである。何年かに1回大きな痛手を受けることもあり、住み続ける、住みたいというベーシックな中には安心安全に自然環境と付き合えるということをやまず土台として総合計画の中に、我々が答申する思いがあって、その上で戦略的な積み上げが出てくるのではないかなと思っている。どこにとは言わないが、そういった思いを馳せていただけるような切り口が入るともう少し中身が濃いものになるかと思う。

【会長】そうすると3ページの(3)日常生活の安心についてというところで、自然災害、防災という観点も含めることが必要だということによいか。

【委員】答申案の内容は特に問題ないと思う。医療の面では、国から県、県から市というように今、地域医療構想の策定の段階になっている。平塚の場合は、主に市民病院と共済病院、新たに済生会病院が移転して、市民にとって医療に関して非常に住みやすい、安心安全なまちという形で捉えられると思う。この医療に関して、医療資源が充実しているということが何らかの形で入れると、戦略的な情報発信や市民へのアピールと他の地域と違った情報というのが出てくるのではないかと思う。

【会長】これも日常生活の安心についてというところと、それから戦略的な情報発信の中身を具体的に、特にどのようなところに重点を置くかというところをもう少し具体性を持った文言にしていかなければならないかなと感じた。

【委員】先程、他の委員がおっしゃった山間部の事は私も少し気になっていた。

もう一点、3ページの子育て支援についてというところで、「若者の子どもを持ちたいという希望が叶えられる環境」という文章のところだが、おそらく意味合いとしては、こうい

うことも含まれているのかなと思うのだが、子どもを持ちたいという文章だけだと、産むことだけという感じがしてしまうので、「安心して子育てができる環境づくり」という部分が分かるような表現もあっていいのではないかと思う。

【会長】全体的なボリュームもあるのでどこまで抽象的な文言にしてどこまで具体的な文言にするかというバランスの問題もあるかと思うが、なるべく具体的に書けるところは具体的に書く努力をしていく必要があるかなと思う。

【委員】先程発言のあった3ページの都市基盤の変化のところであるが、委員からお話があったように、災害のことについては、去年も防災の視点で博物館の方で紹介していたが、昭和40年代前後の頃からかなり河川災害を被って、大変苦勞された歴史が平塚史にあるが、その展示をやっていた。河川の整備とか、ゲリラ豪雨、千年に1度の大雨とか言われている中で、安心安全という意味では、かなり河川整備も遅れている。どちらかという県内でも鶴見川とか、相模川とか、酒匂川とか大河川の方が今先行していて、金目川水系・鈴川水系は遅れている。そういった意味では決して安心ではないので、まちづくりの視点では、そういったこともどこかで表現していかないと苦しんでこられた市民の皆さんたちの想いが吹っ飛んでしまうのではないかと思った。

【会長】防災については、先程から出ているが、殆ど述べられていないということなので、それを留意した形で付け加えさせてもらいたい。

大体意見は承ったと思うので、最終的な調整は私と事務局の方で調整させていただくという事でよいか。

【委員】（異議なし）

【会長】それでは最終的なとりまとめをして、後日、私と副会長とで市長へ答申をする。答申書は事務局から委員の皆様方へ送付させていただく。

以 上